

## 時制と談話構造 - 同時性を表さない半過去再考

東郷 雄二  
(京都大学)

教科書的には半過去は 1) 過去の未完了 2) 非自立的 3) 基準点Rとの同時性を表すという特徴を持つ時制だとされている。ところがこのいずれにも違反する半過去の用法は数多い。このため Sten (1952) のように、半過去の特性として同時性をまったく認めない見解もあるほどである。発表者は東郷 (2007) において、二つのゾーンからなるフランス語時制の全体像を示した上で、同時性を表さない半過去とされる多くの事例 (語調緩和の半過去、市場の半過去、失念の半過去、確認の半過去、現在との対比を表す半過去) は *discours* の半過去であるとし、同時性を表す *récit* の半過去と区別することで説明できることを示した。

本発表では同時性を表さない半過去のうちで、東郷 (2007) では扱わなかったものについて考察する。便宜的に次の3つのタイプを区別する。

1型 関係節・比較節に生じるタイプ

Il n'était plus le garçon qu'il \*était\* 10 ans auparavant.

2型 独立文に生じるタイプ

Il mourut à l'âge de 50 ans. Il \*fumait\* deux paquets de cigarettes par jour.

3型 独立文に生じ、基準点Rより後の時点を表すタイプ

Jean tourna l'interrupteur. La lumière éclatante \*l'éblouissait\*.

1型については、従属節における時制の一致規則を見直すことで整合的に説明できることを示したい。また2型については、Jean se mit en route dans sa nouvelle Mercedes. Il attrapa une contravention. Il roulait trop vite. という有名な例文について東郷 (2008) で示した分析を撤回し、半過去 *roulait* は単純過去 *attrapa* と同時ではなく、*attrapa* の時点よりも過去を表すと考え、このタイプは *récit* に埋め込まれた *discours* の半過去であることを主張する。最後に3型については、語り固有の性質によって時間が前に進み、半過去 *éblouissait* は単純過去 *tourna* の結果生じた状態が生起する時点  $t_1$  と同時性を表すと考えたい。

### 【参考文献】

東郷雄二 (2007) 「Je t'attendais.型半過去再考」『フランス語学研究』41

東郷雄二 (2008) 「半過去の照応的性格 - 連想照応と不完全定名詞句の意味解釈から」『フランス語学研究』42